

コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

⑩

ドイツは見本市が盛んな国だ。主要都市の大半に会場が置かれ、大規模な国際見本市に達したのも多い。ドイツ見本市産業協会(AUMA)によれば、屋内展示面積で、ドイツの会場は世界トップ10に四つが入っている。

メルケル首相と16州政府は6月17日、接触者の追跡や衛生規則の順守ができない大規模イベントの開催禁止期間を、少なくとも10月

本市は開催禁止の対象に含まれない」との声明を発表し、「9月から大半が再開可能となる」との見通しを示した。実際、州政府の定める「衛生および感染防止基準」を満たした上で、9月以降に予定している見本市の開催を決めた主催者も増えていく。

世界最大規模の医療機器商談会「MEDICA」、医療機器の加工技術、部品材料展「COMPAMED」

フランクフルト



世界2位の屋内展示面積(約39万平方メートル)を誇るフランクフルトメッセ。関係者以外の出入りはほとんどない。
13日、フランクフルト市

見本市の再開なるか

未だで延期することで合意した。逆に言えば、追跡や順守が可能な場合は認められ、開催可否の判断は州政府に委ねられている。

AUMAは翌18日、「見

COMPAMEDには、

製品や技術の世界に向けて

もその一つ。例年、医療関係者ら約11万人が訪れるもので、11月中旬にデュッセルドルフで開かれる予定だ。

横浜企業経営支援財団(DEC横浜)が「横浜パビリオン」を設け、横浜市内の企業4社が出展を計画している。市内企業の優れた

発信する貴重な機会だけに、開催された場合には積極的に支援していきたい。(横浜市フランクフルト事務所長・玉井 猛)

随時掲載